

# 今月の日経4紙

2010年9月



## ■日本の先行き問う局面

2010年9月は日本の行方を占うイベントが盛りだくさんな月となりそうです。

ひとつは政治の動きです。7月の参議院選挙で大敗した民主党は9月半ばに代表選を実施します。菅直人首相は続投に強い意欲を示していますが、同党の「反菅」陣営の支持を受けを小沢一郎氏が出馬を表明、行方が見通しにくくなってきました。民主党政権が発足してから1年。鳩山由起夫氏に続いて再び首相が変わることになるのでしょうか。仮に菅首相の続投が決まったとしても、この先の政局運営に影響はないのでしょうか。衆院では過半数を握る民主党ですが、参院は野党に主導権をとられています。様々な法案の成立があやしくなったり、国会運営が混乱したりする恐れもあります。

政治の混乱は国の政策の行方にも影を落とします。例年8月末からは来年度予算の編成が始まります。ただ「政治主導」を掲げた与党の取り組みは遅れがち。各省庁が日本再生の切り札を競う予算の特別枠、景気刺激を狙った経済対策など、近く出てくる政策の内容はこれからの日本経済の足取りを左右します。急激な円高は日本の国際競争力に冷風を浴びせ、膨らむ財政赤字は未来の負担を一段と重くしています。金融政策をつかさどる日銀の動きにも注目が集まります。転換期の日本の政治、政策、企業の行方を丹念に追いかけていきます。

---

---

---

---

---

## 日経産業新聞

NIKKEI BUSINESS DAILY

### ■「強い大学・第3部～留学生30万人に挑む」を掲載（予定）

フロント面で「強い大学」を掲載します。国内の人口減少に直面する日本の大学にとって留学生の受け入れ拡大は急務ですが、欧米に比べて圧倒的に少ないのが実情です。2003年に10万人を突破しましたが、その後は頭打ち傾向にあり、文部科学省が20年までに目指す30万人にはほど遠い状況になっています。それでも大学の中には、海外での募集活動、外国人に対応した教育、日本での就職支援の取り組みを急ぐところが出ています。留学生の拡大は大学における国際競争とも言えます。それぞれの大学がどう対応しようとしているのか、その最先端の動きを紹介します。

### ■「組織を上手に動かしヒットを生む」を掲載（予定）

フロント面で「ヒットの経営学～知の融合が生む独創」を掲載します。7月に掲載した「ヒットの経営学」では「負けない価値を創れ」との副題を付け、売れる商品を生み出す「勝利の方程式」に気付いた企業の秘密に迫りました。ヒット商品・サービスを作り出すためには、組織を上手に動かすことが大事です。今回のシリーズでは、デザイン・研究部門と工場の横断チームによりユニークな製品を開発している家電メーカーや、社員の半数が博士号を取得し、店内に植物工場を備えたサンドイッチ店の立ち上げを支援したベンチャー企業など、売れる商品を生み出している組織を紹介します。

### ■「世界の玄関」羽田空港 ビジネスの期待も急上昇（上旬）

10月、羽田空港の新国際線ターミナルが開業します。江戸の町並みを再現した店舗街など様々な仕掛けが盛り込まれたターミナルビルは、「商業施設」としても注目的です。同時に、日本のハブ空港として外国人の流入が一気に増えることによる、商機拡大への期待も膨らんでいます。空港周辺の商業や交通、サービス事業者ではありません。同空港から国内線で結ばれる地方都市にも、観光需要の増大が見込まれます。アクセスに恵まれた「ハネダ」の国際化進展が、どれだけの波及効果をもたらすのかを分析するとともに、事業者の皮算用を紹介します。

### ■ハウステンボス、どう再建？（中旬）

経営再建中のテーマパーク、ハウステンボスの社長にHISの沢田会長が就任してからほぼ半年がたちます。沢田氏のリーダーシップのもと、イベントを相次ぎ打ち出した効果に加え、景気の持ち直しもあって来場者数は回復傾向にあります。ただ、長年の「負け癖」もあってか、サービスの質などにはまだまだ多くの課題も残っているようです。外国人観光客へのアピール、アクセスの改善、施設運営の一段の効率化、目玉施設の誘致……。これまでの改革の成果と、改めて浮き彫りになった弱点を再確認しながら、今後取り組むべき施策を占います。



日経ヴェリタス  
THE NIKKEI VERITAS

### ■日本国債の疑問に答えます

日本の国債が買われています。理由はいくつかあります。景気のもたつきが長引いて貸出先が見あたらない金融機関は、国債での資金運用に頼らざるをえません。投資マネーもリスクを回避する傾向が強く、株式ではなく安全資産とされる国債の購入を増やしています。しかし日本は財政赤字の残高が近い将来に国内総生産（GDP）の2倍を超える見通しで、ギリシャと変わらぬソブリンリスクの高い国です。財政の破綻の可能性がささやかれているのに、日本の国債をためらいもなく買うのはなぜでしょうか。ギリシャと違って日本の国債はほとんどが国内で消化されるので破綻の可能性はないというのは本当でしょうか。財政赤字は大きいですが、一方で1400兆円もの個人金融資産があるので、大丈夫というのは信じていいのでしょうか。日本の国債にかかわる疑問を解く特集を予定しています。

### ■リーマン・ショックから2年、日本の金融の実力を検証


9月で世界を金融危機、経済危機に陥れたリーマン・ショックから2年になります。欧米の金融機関と違い、日本の金融機関は不良債権が少なく、日本では金融システム不安を避けることができました。一時は米欧の金融機関との力の差が大きく開いた日本勢にとって追いつくチャンスともいわれましたが、どこまで差を縮めることができたのでしょうか。危機2年にあわせて日本の金融の実力を点検します。

## 道新 (有)中川新聞店



〒063-0012

札幌市西区福井6丁目7-1

 0120-104-291

FAX 662-6119

<http://www.doshin-nakagawa.com/>